

# TOKYO MICE テクノロジー 導入ガイドライン

2024年3月更新



## はじめに

本ガイドラインでは、東京で開催するMICE\*の効率化や新しい価値創出に繋がるとともに、高齢化や生産年齢人口減少といった我が国が抱える社会課題への対応、東京都が今後も取り組むべきD&I(ダイバーシティ&インクルージョン)やサステナビリティの推進に資するテクノロジーに着目し、MICEでの活用方法を示すことで、次世代型のMICE開催のあり方を「東京モデル」として国内外に発信する事を目的としています。

本ガイドラインでは、東京でMICEを開催する主催者の皆様に向けて、今後MICEでの活用が期待できる先端テクノロジーの分野を紹介しています。さらに、公募により選定された20のテクノロジーとその活用のイメージを掲載しています。

関連して、先端テクノロジーを活用したMICE開催に対する助成制度(次世代型MICE開催資金助成)も設けていますので、あわせて申請をご検討ください。

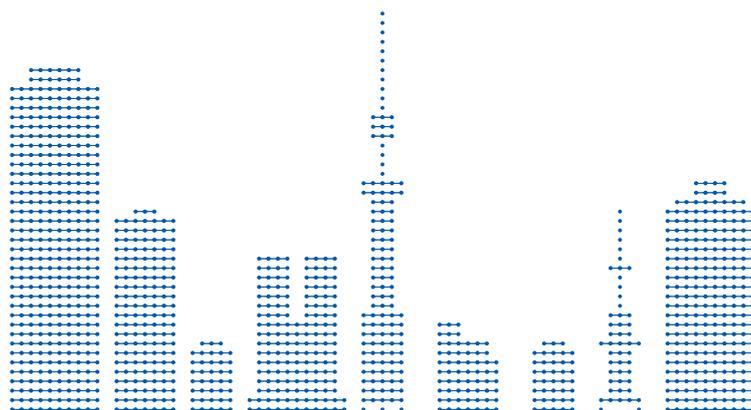
なお、本ガイドラインの内容は、今後の動向等を踏まえて適宜更新する予定です。皆様の東京でのMICE開催の価値を最大化するために、本ガイドラインを積極的に活用されることを願っています。

※MICEとは、M: Meeting(企業系会議)、I: Incentive(企業の報奨・研修旅行)、  
C: Convention(国際会議)、E: Exhibition/Event(展示会・イベント等)の頭文字をとった総称



本ガイドラインで紹介するテクノロジーの一覧	P.2
各テクノロジーの紹介ページの記載事項	P.4
テクノロジーの実装イメージ(01~20)	P.5
各テクノロジーの紹介ページ	P.7
このようなお悩みをお持ちの方は・・・	P.27

MICEにおける  
テクノロジー活用イメージ動画



## 本ガイドラインで紹介するテクノロジーの一覧

下表では、今後MICEでの活用が期待できる先端テクノロジーの分野を、活用が想定されるシーン別にまとめています。公募により選定された20件のテクノロジー(01~20)については、7ページ以降に詳細情報を掲載しています。a~gについては、次のページのテクノロジーの簡易概要をご参照ください。

運営サポート	01 プログラム一元管理	02 イベント管理 プラットフォーム	
入退場管理	03 顔認証入場管理	a セキュリティチェック (異常行動感知)	
会場案内	04 遠隔案内 05	06 AI案内	
式典・レセプション での活用	07 3D表示システム	b インタラクティブ・コンテンツ (プロジェクション・マッピング等)	
	c 配膳ロボット		
セッションでの活用	08 音声多言語化・文字化 09		
	d メタバース会議場	e テレプレゼンス	
展示での活用	10 展示会場誘導ロボット	11 MRによる 会場誘導・体験提供	
	12 混雑状況可視化	13 人流解析	
	14 リアルタイム字幕での 対話及び多言語翻訳	15 遠隔商談	
	16 メタバース展示場	17 XRプラットフォーム交流	18 オンライン・リアル間の コミュニケーション
	19 MaaSプラットフォーム	f 地域観光誘客システム	
観光／視察支援、 周辺サービス	g オンライン視察	20 空間演出	

## テクノロジーの簡易概要 (a～g)

<b>a</b>	<b>セキュリティチェック (異常行動感知)</b>	会場に設置した防犯カメラの映像をAI技術で解析することで、異常行動や異物を感知し、会場内のセキュリティを確保するテクノロジー。
<b>b</b>	<b>インタラクティブ・コンテンツ (プロジェクション・マッピング等)</b>	AIによる映像解析や各種センサーで人の動きや視線を検知し、その動きに応じて映像を変化させるプロジェクション・マッピングなどインタラクティブな要素を含むコンテンツ。屋内外のレセプション会場等をライブで演出する。
<b>c</b>	<b>配膳ロボット</b>	LiDAR <sup>*1</sup> などのSLAM <sup>*2</sup> (自己位置推定と環境地図作成を同時に行う) 技術を活用することで単発のイベントでも自律走行を可能とし、飲食物などの配膳や運搬を行うロボット。 ※1 Light Detection And Ranging ※2 Simultaneous Localization and Mapping
<b>d</b>	<b>メタバース会議場</b>	バーチャル空間に国内外の会議参加者が数百名以上集まり、口頭発表やポスター発表、それらの聴講や質疑応答などを可能とし、リアル開催との併用が可能なメタバース空間システム。
<b>e</b>	<b>テレプレゼンス</b>	ロボットやディスプレイ、CG (コンピュータグラフィックス) 表示など様々なシステムを活用してオンライン参加者をリアル会場に参加させることで、遠隔地のメンバーとその場で対面しているかのような臨場感を提供するテクノロジー。
<b>f</b>	<b>地域観光誘客システム</b>	催事の公式ホームページやアプリ、運営サポートのためのシステムと機能を統合し、開催地周辺エリアの観光情報やクーポンの入手、飲食施設の予約や決済などを一元的に提供するテクノロジー。MICE参加者に食事やショッピング、観光等を楽しんでもらうための機能を有する。
<b>g</b>	<b>オンライン視察</b>	AIによる超解像技術を活用し、360度視点かつ高解像度でリアルな映像配信を可能とした機能を有するロボットなどで遠隔参加を支援し、工場や事務所内部など通常は入場困難なところのライブ視察や現地との質疑応答も可能とするテクノロジー。

## 各テクノロジーの紹介ページの記載事項

今後MICEでの活用が期待できる先端テクノロジーの分野についてより具体的にイメージしていただくため、7ページからは、公募により選定された20のテクノロジーについて、特徴、利用者視点による活用フロー、テクノロジーの価格感、前提条件等を概説しています。なお、いずれのテクノロジーも英語対応が可能です。

### テクノロジーの特徴

各テクノロジーのページ冒頭にテクノロジーの利用シーンを掲載しています。テクノロジーの特徴を概観する際は「テクノロジーの概要」欄を御覧ください。

### 「準備」「開催中」「開催後」の各段階についての活用フロー

主催者の皆様がMICEの「開催中」にテクノロジーを活用する場合、「準備」の段階での事前の調整や、「開催後」の段階での取得データ結果のフィードバックが必要な場合があります。各テクノロジーの「活用フロー」欄では、「準備」「開催中」「開催後」の段階ごとに、テクノロジー活用に係る実施事項や効果・特徴\*を掲載しています。

### 留意事項 1 | 「テクノロジーの価格感」について

テクノロジーを活用するために要する金額は、催事の規模(面積、展示ブースの数、講演・セミナーの数、参加者数等)に応じて大きく変動するため、各テクノロジーの紹介ページでは、右掲の規模で催事を行った場合にかかる目安の金額をお示ししています。一部のテクノロジーでは機器単体の金額となっていますので、ご注意ください。

#### 想定する催事の規模



講演・セミナー会場10会場、  
展示ブース50コマ、  
参加者数3,000人



表彰式・レセプション会場、  
参加者数2,000人



展示ブース250コマ、  
講演・セミナー10回、  
参加者数10,000人

### 留意事項 2 | テクノロジー活用の「前提条件」について

活用するテクノロジーによっては、安定的なサービス提供のため、催事を行う会場内に従来より高速なネットワークが整備されている必要があります。また、来場者がスマートフォンやタブレットをお持ちでなければ活用範囲が狭まる場合があります。そのため、各テクノロジーの紹介ページでは、主催者の皆様が活用する際に抑えておくべき前提条件を掲載しています。特に、推奨通信環境はテクノロジーにより仕様が異なり、通信ネットワークの整備状況は会場によっても大きく異なりますので、ご注意ください。

※効果・特徴は、特定個社のサービス・アプリケーションの概要を踏襲しつつ、当該分野に関する同種のテクノロジーを活用することによって期待される効果(直接的効果のみならず、少なからず間接的に寄与するとも考えられる効果も含める)についても記載しています。テクノロジーの具体概要や効果については、提供事業者への問合せにより確認ください。

# テクノロジーの実装イメージ(01~20)

言語の違いや聞こえにくさによらず対話するために...

**14** ~D&Iを実現するコミュニケーション支援ツール~  
**リアルタイム字幕での対話及び多言語翻訳**

オンライン開催でも臨場感を高めるために...

**16** ~メタバースイベントプラットフォーム~  
**メタバース展示場**

ハイブリッド開催でも交流を促進するために...

**15** ~テレプレゼンスアバターロボット~  
**遠隔商談**

**17** ~XRプラットフォーム~  
**XRプラットフォーム交流**

**18** ~リアルタイムコミュニケーションサービス~  
**オンライン・リアル間のコミュニケーション**

場所に応じたコンテンツを導入するために...

**11** ~MRプラットフォーム~  
**MRによる会場誘導・体験提供**

過度の混雑を防ぐために...

**12** ~AIカメラ~  
**混雑状況可視化**

よりよい開催運営検討のために...

**13** ~Wi-Fiプローブ~  
**人流解析**

開催準備を効率化するために...

**01** ~スマートカンファレンス~  
**プログラム一元管理**

**02** ~イベント管理プラットフォーム~  
**MICE管理プラットフォーム**

受付で来場者の方をお待たせしないために...

**03** ~入退場管理~  
**顔認証入場管理**

効率的にご案内するために...

**04** ~受付対応ロボット~  
**遠隔案内**

**05** ~分身ロボット~  
**遠隔案内**

**06** ~AI活用遠隔有人案内サービス~  
**AI案内**

Wowを演出するために...

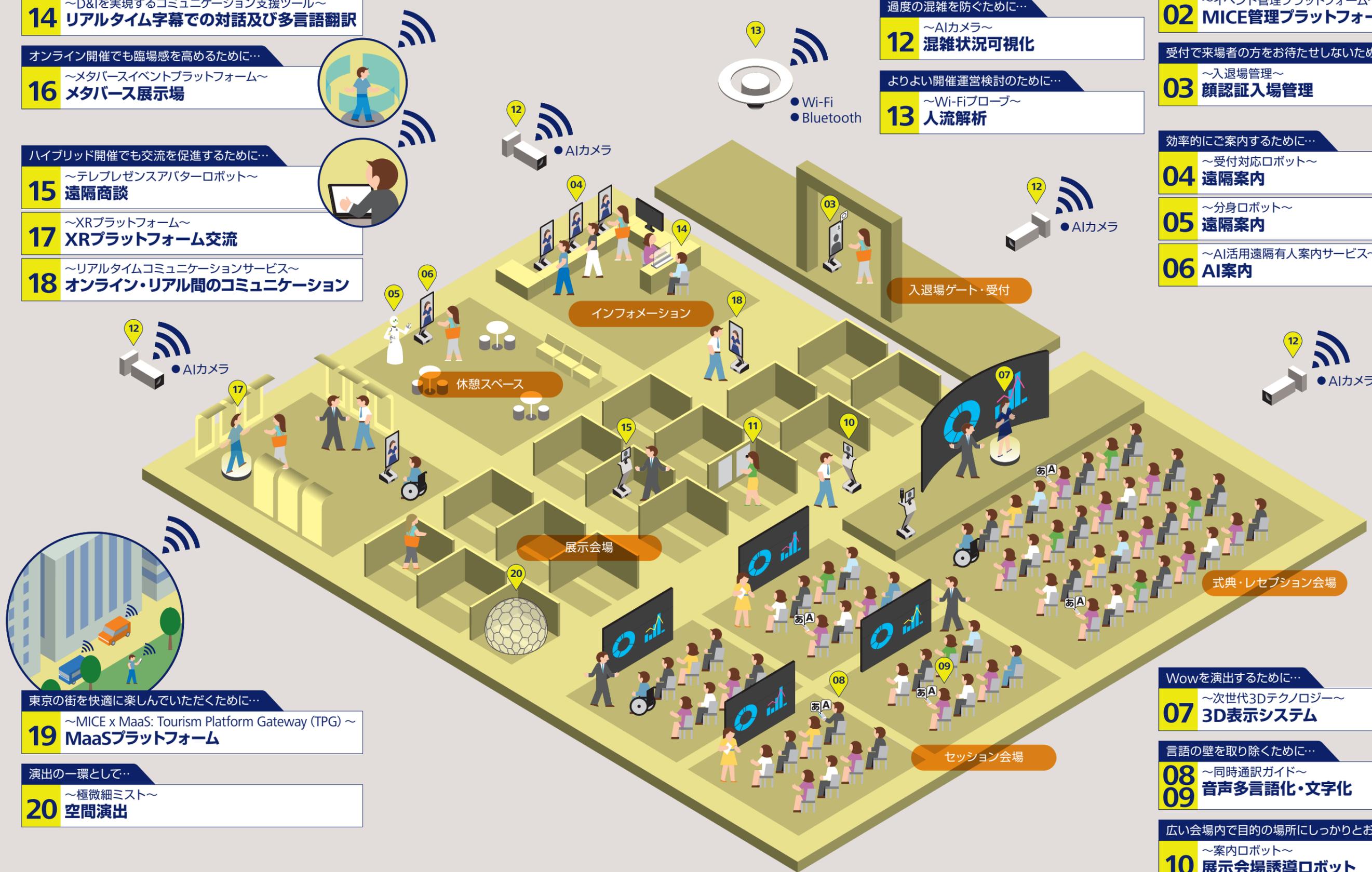
**07** ~次世代3Dテクノロジー~  
**3D表示システム**

言語の壁を取り除くために...

**08** ~同時通訳ガイド~  
**09** **音声多言語化・文字化**

広い会場内で目的の場所にはっきりとお連れするために...

**10** ~案内ロボット~  
**展示会場誘導ロボット**



東京の街を快適に楽しんでもらうために...

**19** ~MICE x MaaS: Tourism Platform Gateway (TPG)~  
**MaaSプラットフォーム**

演出の一環として...

**20** ~極微細ミスト~  
**空間演出**

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

## テクノロジーの概要

- 学会の事務局業務から特設サイト開設までをワンパッケージにした、学会の一元管理システム。
- 学会に係るヒトやコンテンツの管理(各種依頼、受領、承認等)を、クラウド上で定型処理が可能のため、手作業によるミスの最小化、工数削減が可能。
- ハイブリッド開催に向けたオンライン会場構築の機能も具備しており、そのコスト(金銭・工数)も削減可能。

## 活用フロー

## 主催者

## 参加者

各種ファイルを、効率的にクラウド上で一元管理が可能(ローカルでのデータ管理を削減し、常時最新データが取得できる)

## 準備

- 主催者管理画面
    - ・特設サイト制作(CMS)
    - ・参加者登録・招待者のシステム(登録・決済)
    - ・演題登録者の管理システム(登録・採択・発表データ登録)
    - ・講師・座長の管理システム(依頼・承諾・登録・抄録&略歴登録)
    - ・査読委員の管理システム(依頼・承諾・査読)
    - ・スポンサー管理システム(申込・登録・決済)\*
    - ・オンライン会場管理(コンテンツ管理、アクセス権限管理)
    - ・ユーザー管理(メール機能、登録確認内容確認等)
- \*2024年夏リリース予定、詳細要問合せ

- 特設サイト(WEBページ)の閲覧
- ユーザーマイページ
  - ・参加登録(登録・決済)
  - ・公募演題登録(登録・採択・発表データアップロード)
  - ・指定演題登録(承諾・登録・略歴登録)
  - ・査読可否回答(オンライン査読)
  - ・座長担当セッション(セッション情報閲覧)
  - ・メール履歴

参加者、演者、座長、講師、査読委員など、各種手続きが定型化(個別対応やデータの管理工数を削減可能)



- 主催者管理画面
  - ・特設サイト制作(CMS)
  - ・オンライン会場管理(コンテンツ管理、アクセス権限管理)
  - ・ユーザー管理(メール機能、登録確認内容確認等)

- オンライン会場の閲覧
  - ・プログラム一覧・日程表・抄録本文の閲覧
  - ・ライブ配信URL参照・オンデマンド配信視聴

データの定型化と仕組みによって、ユーザー画面とWEBページ・オンライン会場のデータベース連動が可能(WEBページの制作費が削減可能)



## 開催中

## 開催後

## 前提条件

推奨通信環境：10Mbps以上

その他：  
【対応デバイス】ユーザー画面：iPhone、Android Phone、PC | 主催者管理画面：PC

【ユーザー画面対応ブラウザ】  
PC版：Edge最新版、Chrome最新版 |  
iOS版：Safari最新版 | Android版：Chrome最新版

【主催者画面対応ブラウザ】  
PC版：Edge最新版、Chrome最新版

## テクノロジーの価格感

700万円

内訳：参加者数3,000名・演題数1,200でオンライン会場を使用し、導入サポートをうけた場合

\* 画面設計、運用、事務局人件費等は価格に含まない。

## 提供事業者

株式会社PCO(ピーシーオー)

担当：デジタル事業部 | メールアドレス：smcon@pcojapan.jp

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

～イベント管理プラットフォーム～

## MICE管理プラットフォーム

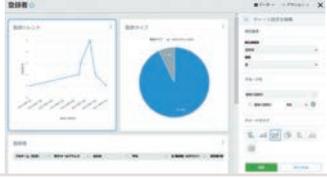
## テクノロジーの概要

プラットフォームの説明動画

- MICEの規模／種別を問わず、サイト作成や登録管理、入場管理、ライブ配信などをオールインワンで実現。
- 参加者や出展者同士でのチャットやアポイントメント、商談などエンゲージメント機能が充実。
- 参加者のアクションにポイントを設定し、「興味関心が強い人のみ抽出」なども可能。



## 活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● WEBサイト準備</li> <li>● 招待メール準備</li> <li>● アンケート項目準備</li> <li>● セッションスケジュール管理</li> <li>● ライブ配信、オンデマンド管理</li> <li>● 論文査読管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バーチャルブース準備</li> <li>● タスクやコンテンツ管理</li> <li>● スタッフ管理</li> <li>● オンライン商談準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● WEBサイトから参加登録</li> <li>● 会場受付用二次元コード確認</li> <li>● 参加予定の講演やアポイントメントを管理</li> <li>● 学会論文提出</li> </ul>
開催中	<p>オールインワンでブランディングされたデザイン/機能を利用して主催者、出展者、参加者がMICEを体験。主催者からのお知らせは、アプリを利用して即時でポップアップ通知。特定の参加者のチェックインを主催者、または出展者に通知して効率的なアテンドも可能。</p> <p>ライブ配信、録画配信組み込みプラットフォームを利用して実施。使い慣れたZoomにも対応可。</p>  <p>オンラインでの参加者行動を可視化。参加型ゲームを設定して参加者のエンゲージメント向上に寄与。</p>	<p>出展者はアプリを利用してリードスキャンが可能。獲得リードレポートをポータルサイト経由で連携。</p>  <p>オンラインで出展者と参加者による商談を支援し、顧客タッチポイントを先進的技術で後押し。</p>	<p>会場参加者はスムーズなチェックイン、アテンドを体験。オンライン参加者も先進的なUXを備えたウェブサイトやアプリから配信を視聴可能。コミュニケーション機能だけでなくゲームなども設定可能で、参加者のエンゲージメント向上に寄与。</p> 
開催後	<p>カスタマイズも可能な100種類以上のテンプレートを用いてレポートが可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● スコアリング機能でホットリードを逃さず、開催後のマーケティング・セールス活動を効率化。</li> <li>● Excel形式・CSV形式・テキスト形式でのデータ出力も可能。</li> </ul>		

## 前提条件

- 提供形態はSaaS(年間契約)となります。
- 年間ライセンス+参加者数が基本料金のベースとなる。  
1年間に何回MICEを開催しても料金は変わらない。

## テクノロジーの価格感

リアルのみ：約520万円～ リアル+バーチャル：約725万円～  
 参加者3000人・講演・セミナー会場10会場・展示ブース50コマを想定  
 展示ブース50社分のリード読取機能、ウェブサイトのドメイン変更機能のオプション含む。  
 \* 参考価格。開催要件などをヒアリングし、案件ごとに見積可能。

## 提供事業者

SaaSpresto株式会社  
 担当：Cvent営業窓口  
 メールアドレス：sales\_cvent@saaspresto.jp

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・セッションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

～入退場管理～

## 顔認証入場管理

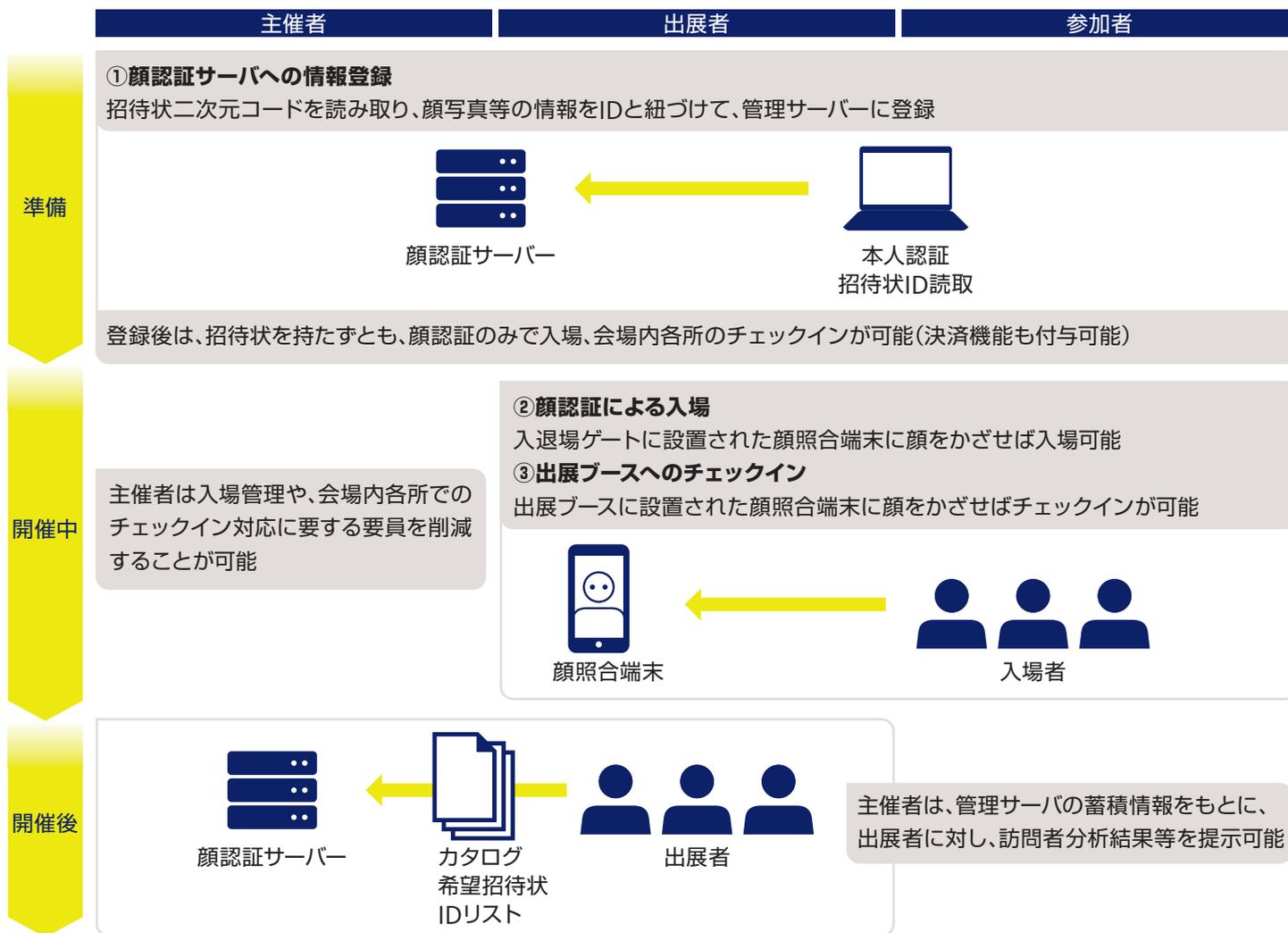
## テクノロジーの概要

顔認証クラウドサービスの概要(動画あり)

- 顔認証を活用した、セキュアかつ手ぶらで利用可能なセキュリティゲートを実現。
- 登録した顔情報にて、入場、出展ブースでのチェックイン等複数の利用シーンで顔認証が可能。
- 本テクノロジーを導入することで、主催者は、入場管理や訪問履歴ログによる情報提供業務の効率化が可能。



## 活用フロー



## 前提条件

- 推奨通信環境：無線LAN(2Mbps以上)
- その他：パスポート・マイナンバーカード  
本人確認による顔登録機能も開発を検討中。価格は要相談

## テクノロジーの価格感

1,500万円  
 内訳：招待状ID(二次元コード読込)紐付け顔情報登録アプリ(1式)、  
 顔登録端末(20台)、顔入場端末(20台)、展示ブース(顔チェックイン端末50台)、  
 顔登録人数(3,000人)、利用期間(1か月以内)

- \* 顔登録人数と利用期間によって金額変動
- \* 入場ゲート、入退システム、電子錠関連、通信環境構築費、電源工事費、利用期間中のコンサル費、開催時におけるエンジニア対応等は価格に含まない。

## 提供事業者

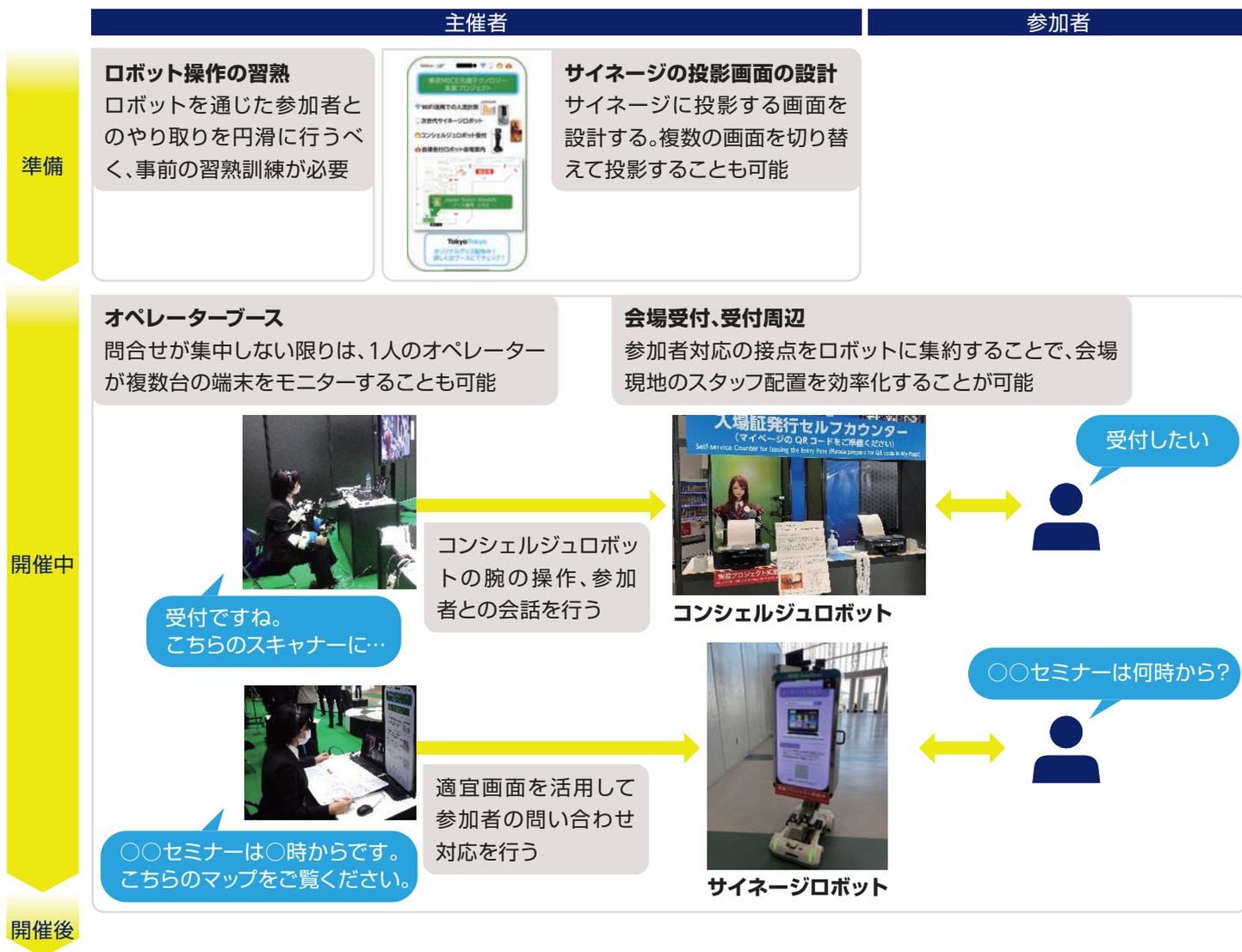
パナソニックコネクト株式会社  
 担当：パブリック営業本部 営業4部 営業1課 織田  
 メールアドレス：oda.h@jp.panasonic.com

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

### テクノロジーの概要

- 会場受付やその周辺において、サイネージを搭載した自走型ロボットで参加者へ情報掲示を行ったり、遠隔オペレーターと参加者間の双方向の会話を通じた各種問合せ対応を行うことが可能。
- 会場内に複数設置した場合でも、オペレーターは遠隔で各端末に接続することになるため、多言語対応のスタッフ等の人数を削減するなど、効率的なスタッフ配置を検討することが可能。

### 活用フロー



### 前提条件

- 推奨通信環境：  
無線LAN(-50dBm以上、10Mbps以上)

### テクノロジーの価格感

コンシェルジュ：1台当たり 40万円/日  
 サイネージ：1台当たり 40万円/日  
 内訳：ロボットレンタル費用(現地設置日から撤収日までの1日当たりの参考価格)  
 \* 輸送費、現地調整費、設営スタッフ費用、遠隔オペレーター人件費、通信環境構築費、利用期間中のコンサル費、開催時におけるエンジニア対応等は価格に含まない。

### 提供事業者

THK株式会社 サービスロボット事業部  
 担当：小林久朗 | メールアドレス：hi.kobayashi@thk.co.jp

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

## テクノロジーの概要

分身ロボットの説明動画

- 会場に足を運ばない人の存在感を伝える「分身ロボット」が往来しお客様を接客することにより、未来感のあるカンファレンスシーンを演出可能。
- OriHimeを通じて、参加者が会議に遠隔参加できるだけでなく、スタッフも遠隔にて接客対応が可能。
- 本サービスの導入において、外出が困難な方(障がい者、子育て、介護)の在宅勤務等での活躍を促進可能。



## 活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	<ol style="list-style-type: none"> <li>①スタッフとして分身ロボットOriHimeを操作する方(OriHimeパイロット)の業務の洗い出しを行う ②参加者がOriHime経由で参加できるプログラムの設定・事前周知を行う</li> <li>OriHimeパイロット(遠隔就労スタッフ)が当日話すスクリプト作成、ロボット横に設置する説明資料 投影用iPadのスライドを用意する(必要に応じて)</li> <li>当日の説明員・接遇員として通常スタッフが受ける事前トレーニングをリモートで受講する(外国語 対応・業界知識対応・会場接遇対応など)</li> <li>OriHime・OriHime-Dの動作・挙動・プレゼンター操作に慣れるための操作練習を行う</li> <li>ロボット稼働の準備をする(Wi-Fiや電源の確保・テストログイン)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>OriHime参加者のためのプログラムを検索し、 予め出席したいカンファレンス先などの ID/PSWDを主催者側から取得しておく。</li> <li>OriHime操作専用アプリを事前にDLして おく。</li> </ol>
開催中	<ol style="list-style-type: none"> <li>OriHimeパイロット(遠隔就労スタッフ)ならではの利点を活かしながらお客様の接客・説明を行う <ol style="list-style-type: none"> <li>抜群のアイキャッチ効果</li> <li>多言語対応(OriHimeの操作を行う、OriHimeパイロットのトレーニングが必要)</li> <li>iPadによるビジュアル的な説明</li> <li>簡単な誘導(移動型分身ロボットOriHime-Dの場合)</li> </ol> </li> <li>ダイバーシティ&amp;インクルージョンへの取組施策の一環としてのPR活用 <ol style="list-style-type: none"> <li>肢体不自由当事者やその介護者など外出困難者と言われる方々の社会参画を実現している 取組であることをアピール可能</li> <li>働きたくても働けなかった外出困難者の社会参画を通じて、少子高齢化に伴う今後の人手 不足対策への一助となることをアピール可能</li> </ol> </li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>主催者が用意したOriHime参加プログラムの中 から、希望するカンファレンスやミーティング を見つけて、あたかもそこに自分がいるよう な形で参加できる。</li> <li>通常の会議参加とは異なる形でのエンゲージ メントの創出が可能。</li> </ol>
開催後	<ol style="list-style-type: none"> <li>催事中にアンケート回答の呼びかけを実施。来場者属性や展示物に対する印象などのデータを収集し 事後マーケティングに活用可能。</li> <li>カンファレンス後の都内観光時にOriHimeの貸し出しを実施。都内観光エリアにOriHimeを持参して いただき、OriHimeパイロット(遠隔就労スタッフ)によるその場での外国語ガイドおよび現地スタッフ との通訳を実施可能。(観光情報についての事前トレーニングが必要です)</li> </ol>		



## 前提条件

- 推奨通信環境：無線LAN(OriHime：上り下りとも10Mbps以上、OriHime-D：上り下りとも50Mbps以上)
- OriHime-Dの稼働の場合、床面が平滑で段差がないこと
- OriHime-Dのバッテリー稼働時間：5～6時間(バッテリーの途中換装可能)
- OriHimeパイロット(遠隔就労スタッフ)は複数人で1時間ごとにシフトを組み、1ポジションを担務します。(稼働時間の目安：10時～17時7時間/日程度)

## テクノロジーの価格感

- OriHime-D(移動型) 50万円/日～
  - OriHime(卓上型) 10万円/日～
- 内訳：ロボットレンタル費(OriHime 4万円～OriHime-D 17.5万円)、OriHimeパイロット研修費(1名あたり)25,000円～、インターネット回線費(14,800円/月、OriHimeパイロット人件費(5000円/h)、テックスタッフ立会い人件費(30,000円/人日)、精密機器梱包・運搬費5～10万円(都内の場合)

## 提供事業者

株式会社オリイ研究所  
担当：鈴木メイザ(OriHime事業部) | メールアドレス：event@orylab.com

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

## テクノロジーの概要

- サイネージによる施設・観光案内を実現し、インフォメーションの省人化に寄与。
- アバターが案内を実施、簡単なQ&AはAIが回答し、難しいものは遠隔による有人応対が可能。
- 本サービスの導入において、外出が困難な方(障がい者、子育て、介護)の在宅勤務等での活躍を促進可能。

## 活用フロー

	主催者	出展者	参加者
--	-----	-----	-----

## 準備

主催者は、本催事で想定される質問とその回答を施設案内、観光案内の観点を事前に作成  
施設、講演、セミナー、観光案内用の資料を電子化  
アバターのコスチュームはデザインを自由に変更可能

出展者は、ブースの図面提供、出展内容資料を電子化

## 参加者

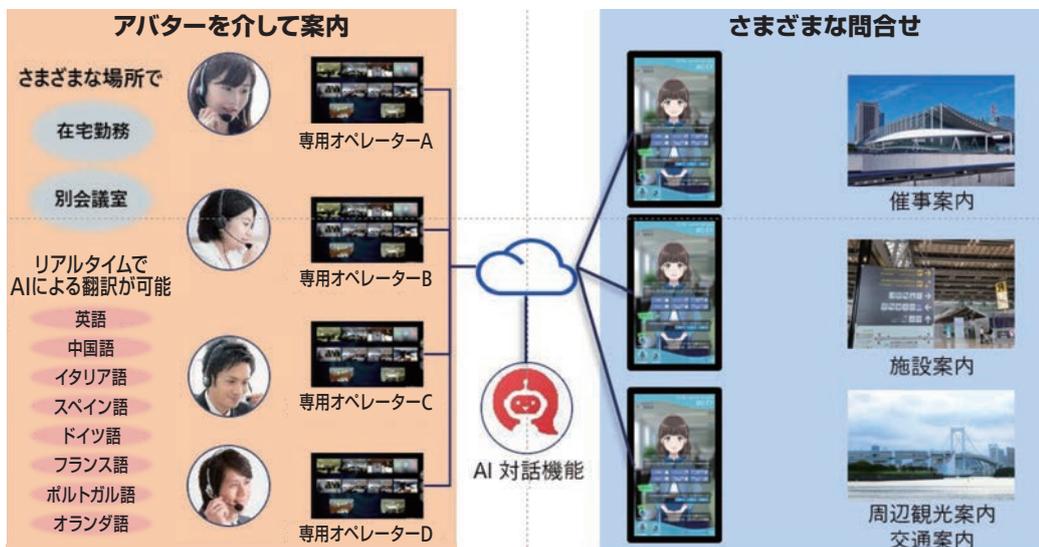
## 主催者

- 簡単な問い合わせはAIが自動的に回答し、難しいものはオペレーターが遠隔操作で有人応対
- 1人で複数台を操作できるため、必要人数の省力化に寄与するほか、在宅勤務など、場所を選ばずに対応業務が可能

## 参加者

- 双方向のリアルタイム翻訳機能により、オペレーターの言語スキルを問わず多言語(8言語) 対応が可能

## 開催中



## 開催後

## 前提条件

- 推奨通信環境：無線LAN(2Mbps以上)

## テクノロジーの価格感

1,000万円

内訳：案内用受付端末(9台)、オペレータ端末(3台)

- \* 利用期間(準備期間含め2週間以内)
- \* 開催時における保守対応あり(予備機:受付端末1台、オペレータ端末1台)
- \* 利用期間中のコンサル対応、オペレータ要員、通信環境等は価格に含まない。

## 提供事業者

パナソニックコネクト株式会社

担当：パブリック営業本部 営業4部 営業1課 織田

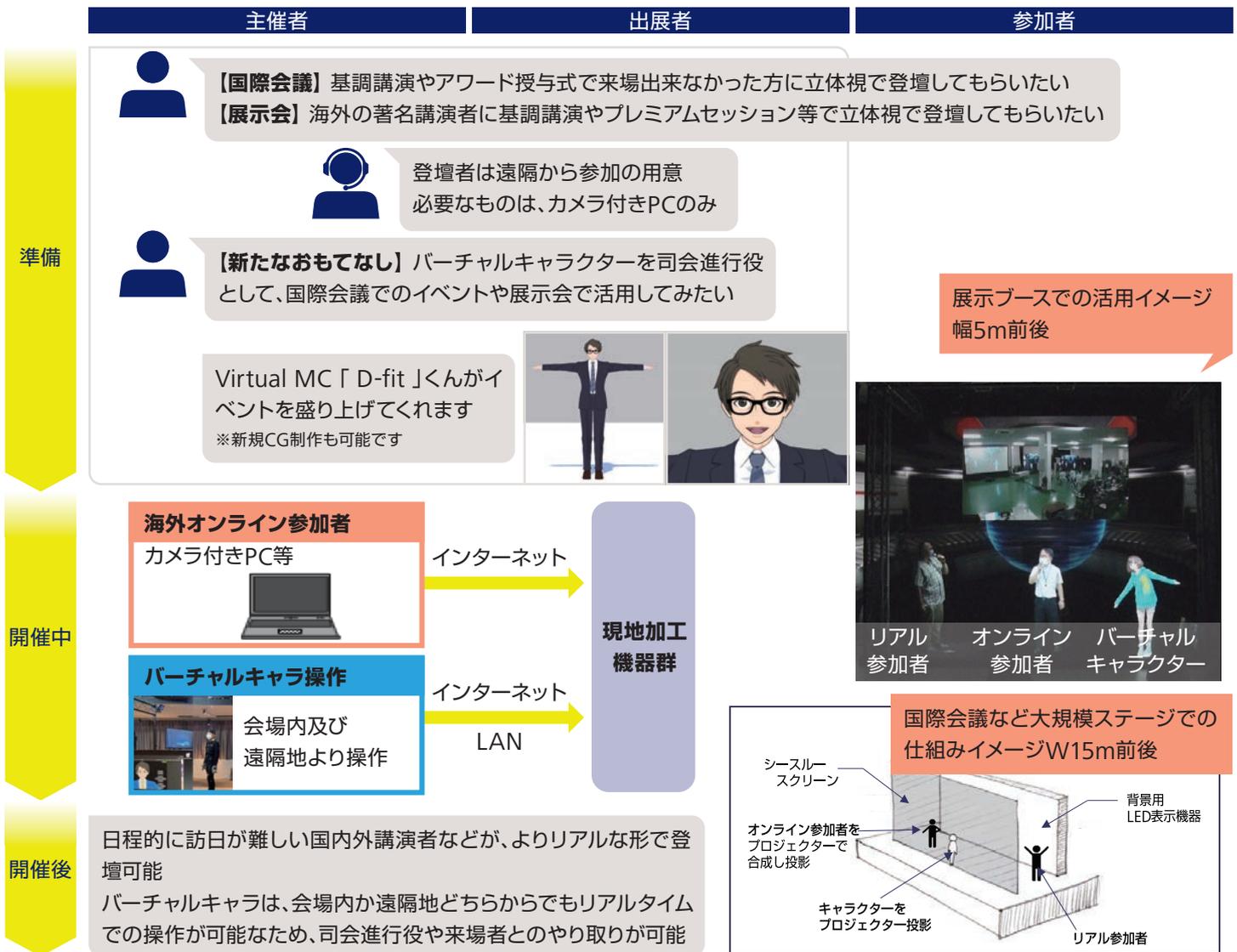
メールアドレス :oda.h@jp.panasonic.com

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

## テクノロジーの概要

- オンライン登壇者をリアル空間に立体視投影することが可能。
- 海外の著名登壇者や授賞者を目の前に登場させることで、臨場感のあるステージを構築。
- パーチャルキャラクターの3次元化も可能であり、多彩なステージを実現。

## 活用フロー



## 前提条件

- 推奨通信環境：  
通信環境構築(インター ネット回線 10Mbps以上)
- ブースなど舞台以外での導入の場合、ブースバックヤード内に機器設置スペース(3m×5m程度)を確保する必要有

## テクノロジーの価格感

300万円～ \* 展示ブースでステージ幅5mまで 既存キャラクター活用の場合  
2,000万円～ \* ステージ幅15mまで既存キャラクター活用の場合  
内訳：初期費用、既存キャラクター利用費、基本システムレンタル費、技術オペレーター人件費、キャラクターパフォーマ人件費、準備期間中の人件費(4か月以内)  
\* 演出構成費、映像表示装置レンタル費(本システムとの併用可能)、新規オリジナルパーチャルキャラクター制作費(1体100万円～)、利用期間中及び事後展開のコンサル費、オンラインプラットフォーム利用料は価格に含まない

## 提供事業者

株式会社レイ(共同企画：株式会社ICT、株式会社ディーフィッツ)  
担当：イベント事業本部 紺井 | メールアドレス：multiverse@ray.co.jp

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

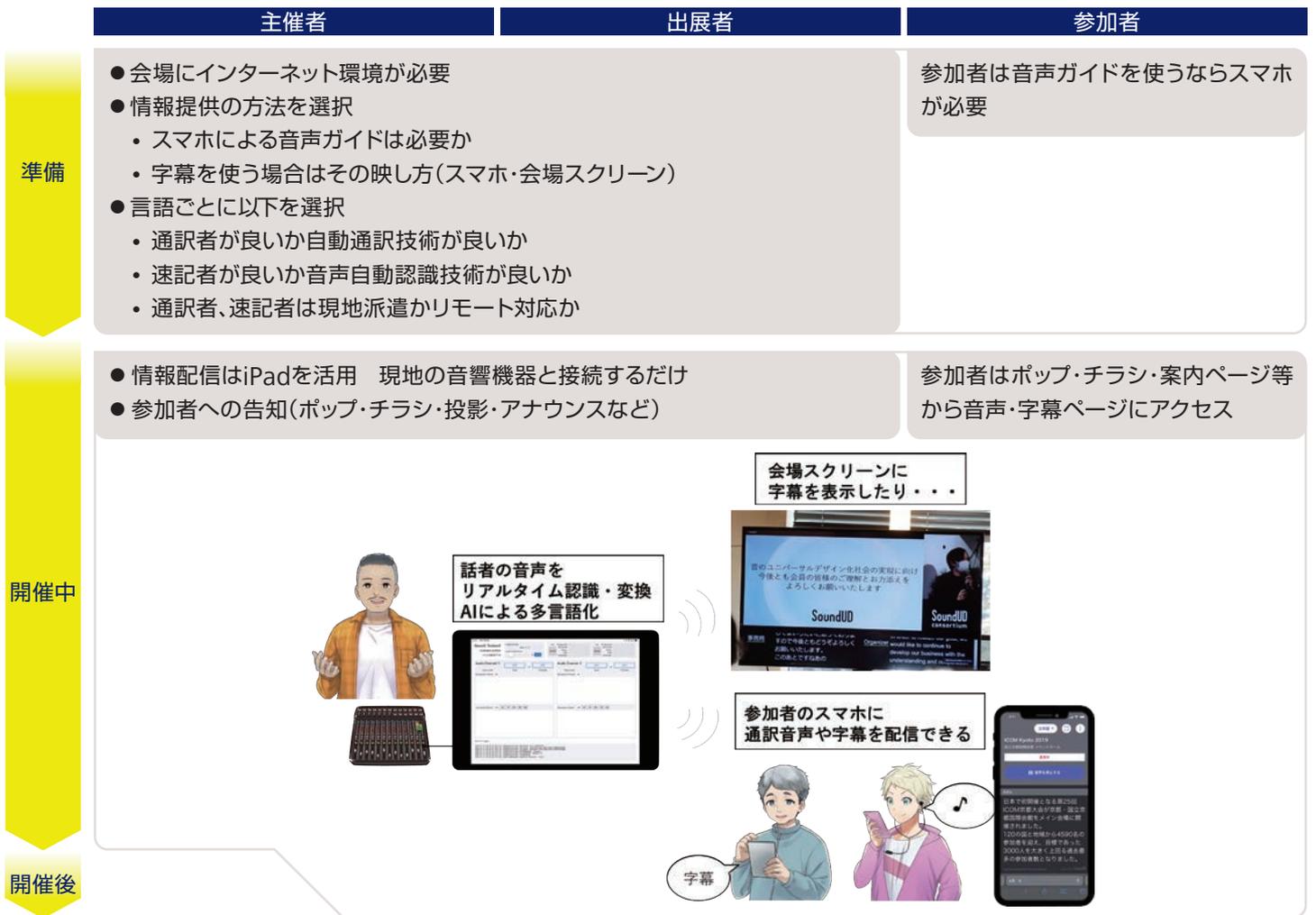
～同時通訳ガイド～

## 音声多言語化・文字化

## テクノロジーの概要

- 通訳・字幕のサービスが一体に！ユニバーサルデザイン・サステナブルな対応を簡単に実現。
- シーンや予算に合わせて、言語数、通訳者派遣かAIの自動通訳か、オンサイトかリモートか、など柔軟に選べる。
- 参加者のスマホを活用するので、大規模イベントでも大勢の方にご利用頂くことが可能。
- 自身が分かる言語で情報の発信・受信ができるため、国を跨いだシームレスなコミュニケーションに寄与する。

## 活用フロー



## 前提条件

- 推奨通信環境：無線LAN(-50dBm以上、10Mbps以上)

## テクノロジーの価格感

20万円～/日※1 32万円/日※2

利用シーン：講演・セミナー会場10会場、8時間のイベント、参加者数3000人のうち10%が利用と想定

※1 ユーザーへの配信なし(音声は会場スピーカーからのみ、字幕は会場スクリーンへの字幕投影のみとする、など)

※2 ユーザーへの配信あり(通訳音声や多言語字幕をユーザー端末に配信する場合)

内訳：システム利用料(会場数、想定利用者数、利用時間で変動。言語数は問わない)  
通信環境構築費、iPad等の機材費、コンサル費、開催時におけるエンジニア対応、通訳者派遣費等は価格に含まない。

## 提供事業者

SoundUDコンソーシアム(ヤマハ株式会社内)

メールアドレス：soundUD-consortium-ML@music.yamaha.com

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

～同時通訳ガイド～

## 音声多言語化・文字化

## テクノロジーの概要

同時通訳ガイドの説明動画

- 国際会議などの場において、AI技術を活用した精度の高い多言語の同時通訳を実現可能。
- 会議参加者は自身のスマホをレーザー代わりになすことができ、母国語に翻訳された文字・音声を視聴可能。
- 文字情報でも会議内容の視聴が可能であるため、耳の不自由な方でも会議内容の把握が可能。



## 活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	ポケット株式会社と、グローバルイベントや会議の運営会社とで打ち合わせを実施し、参加人数や開催日数など、実施規模に関する確認、および協議・調整を行う。AIによる通訳のため、イベント内容の事前共有や通訳に関わる備品（ブースやレーザーなど）の準備が不要になり、主催者は、従来の同時通訳者手配に関連する様々なコストや準備にかかる時間を、大幅に削減することが可能となる。		参加者は、特別なアプリ等のインストールは不要で、主催者の指定する二次元コードをスマートフォンで読み込むだけで同時通訳サービスを受けることが可能。
開催中	パソコンでソフトを起動する	参加者向けに二次元コードを提示する	指定の二次元コードを読み込む
			
	<p>登壇者の言語 <b>10言語</b> に対応</p> <p>英語、日本語、中国語、韓国語、スペイン語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語</p> <p>▼</p> <p><b>ポケット for BUSINESS カンファレンス</b> で74言語へ同時通訳</p>		音声とテキストで同時通訳
開催後	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 同時通訳に関連する撤収は、パソコンのみ</li> <li>● カンファレンスの内容はログとして保存することが可能（主催者・参加者の双方）</li> </ul>		

## 前提条件

- 推奨通信環境：  
無線LAN・有線LAN環境(30Mbps以上)

## テクノロジーの価格感

目安として、30万円～/日

- ※1 ただし、使用時間と参加人数によって変動する
- ※2 詳細・最新情報については、下記URLを参照のこと  
<https://pocketalk.jp/forbusiness/conference>

## 提供事業者

ポケット株式会社  
 担当：ポケット株式会社 広報担当  
 メールアドレス：pr@pocketalk.com

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

## テクノロジーの概要

- 会場内において、自律移動型ロボットを活用することで、会場内各所への誘導案内を行うことが可能。
- 予めロボットに走行ルートを学習させれば、障害物や人を避けて、安全に目的地まで移動することが可能。
- 会場スタッフの案内業務の工数圧縮ができるため、他業務への工数振り分けが可能。
- 20か国以上の言語に対応しているため、様々な国の方へのご案内が可能。

## 活用フロー



## 前提条件

- 推奨通信環境：  
無線LAN(-50dBm以上、10Mbps以上)

## テクノロジーの価格感

36万円 ※ 目安額であるため、個別問い合わせ要

内訳：自立移動型ロボット(temi)1か月レンタル費用

temi centerとtemi有料アプリbuddybot(任意のタイミングで言語を切り替えることができ、複数言語でも均質の案内サービスを提供する／サービス利用記録を外部記録台帳にリアルタイムで記録するソフトウェアライセンス料)、設定経費、現地エンジニアによる設定・トレーニング費用含む

- \* 通信環境構築費、保険、電源の造作工事等は別途
- \* temi本体のレンタルは個別見積
- \* ロボットに発話させるセリフは運営者より提供されること(対応言語分)
- \* 表示する画像コンテンツは運営者より提供されること

## 提供事業者

株式会社大塚商会

担当：インサイドビジネスセンター

メールアドレス：INSIDE-ROBOT@otsuka-shokai.co.jp

電話：0120-767-203 (平日9:00～17:30)

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

～MR(Mixed Reality)プラットフォーム「Auris」～

## MRによる会場誘導・体験提供

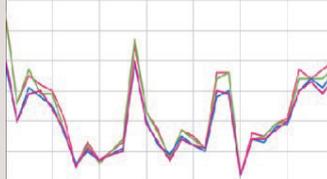
### テクノロジーの概要

MRプラットフォームの説明動画

- MR技術を活用することで、音声コンテンツをリアル空間上にバーチャルに配置することができるシステム。
- 音声コンテンツは事前制作が必要となるが、コンテンツの設置はスマホやタブレットのみで対応可能。現地での物理的な施工を伴わないことから、短時間且つ施設側に負担をかけない設置が可能。
- 利用者は、スマホ端末等を持った状態でイヤホンをつけることで、会場内の誘導・案内コンテンツやエンタメコンテンツ等の体験が可能。(視覚障害者への対応、多言語対応なども可能。)



### 活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	<p>デジタル空間を整備するエリアを決定。「Auris editor」アプリでエリアをスキャンし、デジタル空間を作成。</p> <p>デジタル空間上に配置する音声コンテンツを制作し、オーサリングツールから、空間上に配置し任意の体験を設計。具体的には、来場者向けのエンタメコンテンツ、誘導・案内コンテンツ、多言語コンテンツ等である。</p>	 	<p>App Storeから「Auris」アプリをインストール</p> 
開催中	<p>貸出のスマートフォンや来場者自身のデバイスで体験を提供。</p>   <p>デジタル空間の整備後は、コンテンツの入れ替えなども対応可能。開催期間中の運用改善や時期を区切った提供コンテンツ変更など臨機応変なサービス提供をすることができる。</p> <p>アナリティクス機能も実装しており、来場者の行動等を把握することで、より効果的な運営企画を行うことも可能。</p>  <p>また、多言語対応機能も実装予定。</p>	<p>Aurisがインストールされたスマートフォンで、当該イベントのコンテンツを選択。貸し出しのイヤホンもしくはヘッドホンで体験。</p>  <p>イベント会場の案内・誘導や、イベントに関連した音声コンテンツ、フラグ機能を活用した体験型コンテンツ、多言語での案内等、好みの体験を受けることができる。</p>	
開催後	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体験者や再生回数などの統計データをユーザーごとにトラッキングして、蓄積することができるため、その蓄積したデータ・フィードバック情報をもとに、イベントや展示の効果検証やマーケティングに繋げることができる。</li> <li>● 一度整備したデジタル空間はその後も使い回しができる(仮設会場でない場合)ため、次回以降のイベントにおいてはコンテンツ制作のみで再度そのデジタル空間を活用できる。</li> </ul>		

### 前提条件

対応OS：iOS(15.0以上)・iPadOS  
 対応機種：iPhone8以上  
 推奨機種：iPhone 12 Pro以降のPro  
 シリーズiPhone(LiDAR搭載端末)

通信環境：

推奨：上下10Mbps 必須：上下2Mbps

※ 極端に暗いなど、カメラ機能を活用した位置測定が難しい場所は対応不可

### テクノロジーの価格感

300万円～1,000万円

内訳：初期費用、ライセンス料(1年間)、コンテンツ制作費

※ 内容により金額変動がある。

※ なお、コンテンツ制作は導入企業自身で行い、システム提供のみの対応も可能。

※ Android についても機能開発中のためお問い合わせください。

### 提供事業者

株式会社GATARI

担当：事業開発部 | メールアドレス：contact@gatari.co.jp

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

～AIカメラ～

## 混雑状況可視化

### テクノロジーの概要

- ネットワークカメラの映像から人の頭部や全身を検知・認識し、リアルタイムで対象エリアの混雑状況を計測。
- 各エリアの混雑状況をリアルタイムに把握できるため、来場者の効率的な誘導が可能。
- ディスプレイやサイネージ等と連携も容易であり、喫煙所、休憩所の混雑状況の告知、無人での誘導も可能。

### 活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	<p>会場内にネットワークカメラを設置（汎用のもので可）</p> <p>ネットワーク回線を敷設し、ネットワークカメラを混雑状況可視化アプリケーションに接続</p>		
開催中	<p>人の頭部をカウントする方式のため、屋外など人と人が重なり合う密集した状態でも、より正確な混雑状況を検知同時に1,000人を超える人数でも計測可能</p> <p>混雑状況は、ダッシュボードでいつでも確認可能</p>	<p>WebAPIを連携すれば、サイネージや大型ビジョン、参加者のスマートフォンアプリ等への表示も可能</p>	  <p>表示画面イメージ</p>
開催後	<p>人流データを活用することで、講演時間、ブース位置等による集客力の違いを可視化</p> <p>ブースの位置決めなど、次回以降のマーケティング等に活用可能</p>		

### 前提条件

- 推奨通信環境：無線LAN

### テクノロジーの価格感

カメラ1台毎：60万円 \* 会場規模、会場数によりカメラ機種・台数は変動します。  
 内訳：標準カメラ、カメラ三脚、混雑状況可視化利用料、準備期間料（利用期間5日間の場合のカメラ1台当たりの費用）  
 \* 通信環境構築費、利用期間中のコンサル費、開催時におけるエンジニア対応等は価格に含まない。

### 提供事業者

パナソニックコネクト株式会社  
 担当：パブリック営業本部 営業4部 営業1課 織田  
 メールアドレス：oda.h@jp.panasonic.com

## ～Wi-Fiプローブ～ 人流解析

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

### テクノロジーの概要

- 電子タグ、ビーコン等の無線技術を利用し、VIPや来場者などの行動履歴を把握することができるテクノロジー。
- <1. Wi-Fiプローブ>Wi-Fiプローブ(Wi-Fi対応のスマートフォン等が周辺のアクセスポイントを検索するために発信される信号)の情報を用いて、リアルタイムで会場内の来場者の人数・混雑状況の把握が可能。主催者が入場制御等の対応を実施するための判断材料として活用することに期待。また同一のスマートフォン端末が複数のアクセスポイントで検知されることで回遊状況や滞在時間の分析が可能であり、ブース配置や案内の検討が可能となる。
- <2. Bluetoothベースの高精度測位技術(Quuppa)>会場全体あるいはブースの天井等に「ロケーター」を複数設置しておけば、「専用タグ」を持った人や物のブースや会場内での移動状況を捕捉可能。そのため、ブースや会場内での展示物やスタッフ配置のオペレーション改善の検討材料として活用することに期待。

### 活用フロー

#### 1. Wi-Fiプローブ

準備



#### 2. Bluetoothベースの高精度測位技術(Quuppa)

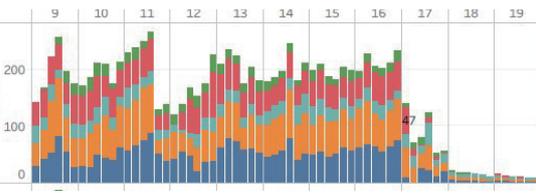


ブースや会場内への「ロケーター」の設置  
動線解析を行いたい対象のブースや会場において、一定間隔で「ロケーター」を設置する

開催中

#### 来場者数増減のモニタリング、適宜入場制御等判断

Wi-Fiプローブ情報をもとにしたグラフ等により、会場内各所の来場者数の増減をモニタリングする。混雑箇所を特定したり、適宜の入場制御等の対応を行う際の判断材料として活用する

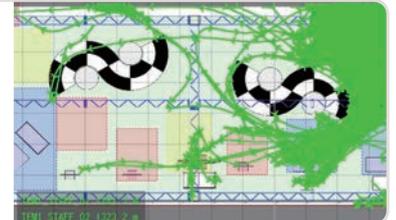


出展者のスタッフや来場者は、「専用タグ」を常時持った上で、商談やブース訪問等を実施



#### 動線解析

「専用タグ」の動線を事後的に分析し、会場やブース内での展示物やスタッフ等のオペレーション改善の検討を行う



開催後

#### 次回開催時の会場設計、来場動線設計等に活用

Wi-Fiプローブ情報をもとにした滞在や回遊状況の可視化により、会場設計や来場動線設計等に活用する

### 前提条件

- 推奨通信環境：  
Wi-Fiプローブ(なし)、Quuppa(無線LAN(ライセンス認証時のみ利用))

### テクノロジーの価格感

- Wi-Fiプローブ：150万円～
- Quuppa(ブース内)：200万円～ Quuppa(会場全体)：950万円～
- 内訳：●Wi-Fiプローブ：機器(10台)100万円～、分析・可視化50万円～
- Quuppa(ブース内)：ロケーター(5台)100万円～、タグ(20台)13万円、分析・可視化40万円 ※工事費除く
  - Quuppa(会場全体)：ロケーター(20台)400万円～、タグ(500台)300万円、分析・可視化100万円 ※工事費除く

### 提供事業者

国際航業株式会社

担当：畑 | メールアドレス：hisayuki\_hata@kk-grp.jp

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

～D&Iを実現するコミュニケーション支援ツール～

## リアルタイム字幕での対話及び多言語翻訳

### テクノロジーの概要

VUEVOの説明動画

- 様々な国の方々が、リアルタイム翻訳機能を活用し、言語の壁を越えて母国語同士で会話が可能。
- 聴覚障がいや聞こえにくさがある方と、文字起こし機能・テキスト入力機能を活用しスムーズに会話が可能。
- 二種類のUIがあり、1対1のコミュニケーション・複数名のコミュニケーションどちらでも活用可能。



### 活用フロー

	主催者	出展者	参加者	
準備	 <p>①VUEVO字幕透明ディスプレイ 会場に字幕透明ディスプレイとVUEVOマイクを設置する</p>	 <p>②VUEVOマイク&amp;アプリケーション 会場にVUEVOマイクと、必要に応じて画面を表示する機器を設置する</p>	参加者が必要な事前準備はなし	
	開催中	<p>①VUEVO字幕透明ディスプレイ(1対1の対話シーンで会話を双方向に文字起こし・翻訳が可能)</p> <p>(a) 受付など1対1の対話シーンで活用</p>  <p>母国語同士で会話ができることでスムーズな受付対応が実現</p>	<p>(b) 展示ブースなど商談を行う場面で活用</p>  <p>母国語同士で会話ができることにより円滑な商談が可能</p>	
<p>②VUEVOマイク&amp;アプリケーション(複数名の会話で話者別に文字起こし・翻訳が可能)</p> <p>(c) セミナーなど多くの聴衆がいるシーンで活用</p>  <p>各参加者の希望する言語で講演内容の確認が可能</p>		<p>(d) 交流スペースなど複数人での会話で活用</p>  <p>言語の壁を越えた多様なコミュニケーション機会を創出</p>		
開催後		<p>①VUEVO字幕透明ディスプレイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用時間・利用言語のデータを確認することが可能</li> </ul>	<p>②VUEVOマイク&amp;アプリケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 文字起こしの記録が残るため、会話内容を振り返ることが可能</li> <li>● 文字起こし記録をもとにした講演記録の作成や要約の自動生成が可能</li> </ul>	

### 前提条件

- ①VUEVO字幕透明ディスプレイ
- 推奨通信環境：無線LAN(上り1Mbps以上)
  - 必要機器：VUEVOマイク+透明ディスプレイ + iPhone/iPad
- ②VUEVOマイク&アプリケーション
- 推奨通信環境：無線LAN(上り1Mbps以上)
  - 必要機器：VUEVOマイク+スマートフォン/タブレット

### テクノロジーの価格感

- 〈レンタル費用例〉
- VUEVO 字幕透明ディスプレイ5台 50万円～
  - VUEVO マイク&アプリケーション5台 30万円～
  - ※ 設置・サポート費含む
  - ※ ご利用条件に合わせて、個別にお見積り可能。

### 提供事業者

ピクシーダストテクノロジーズ株式会社  
 担当：View of Voice 事業部  
 メールアドレス：vuevo@pixiedusttech.com



事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

## テクノロジーの概要

メタバースイベントプラットフォームの説明動画

- 専門知識不要でお手軽にリアル会場のような展示空間をメタバース(3D)上に構築可能。
- 出展者と参加者とのコミュニケーションや参加者による自由な回遊など、臨場感のある体験を提供可能。
- リアル会場への来場が難しい参加者も、リアルタイムに参加が可能で、地理的制約のないイベントを開催可能。



## 活用フロー



## 前提条件

- 推奨通信環境：無線LAN(-50dBm以上、10Mbps以上)
- 推奨利用端末：PC(CPU: Core i5-7300U 2.70Ghz以上, RAM: 8GB以上, Chrome/Edge最新版)

## テクノロジーの価格感

3,000万円 ※ 目安額であるため、個別問い合わせ要  
 内訳：初期費用、ブース設営枠(250コマ、同数の講演枠を含む)、  
 来場登録者枠(10,000人分)  
 \* 通信環境構築費、展示コンテンツ制作費、ブース設営に係る人件費、利用期間中のコンサル費、開催時におけるエンジニア対応等は価格に含まない。

## 提供事業者

株式会社ジクウ  
 担当：事業統括部  
 メールアドレス：sales@ziku.inc

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

## テクノロジーの概要

XRプラットフォームの説明動画

- リアル参加者とオンライン参加者(アバター)の位置情報を共有し、それぞれの空間でリアルタイムに行動を反映。
- アバターモーションや感情アイコン、チャットなどでコミュニケーションが可能。
- リアル参加者目線の体験(映像や音声等)をオンライン参加者に共有でき、体験価値の向上に寄与。
- 自分の分身である“アバター”を介することで、どなたでも身体的コミュニケーションを含めた、人と人とのコミュニケーションが可能。



## 活用フロー

主催者	出展者	参加者
-----	-----	-----

## 準備

- リアル会場は有線LANを敷設(内容によってオンライン会場のみ準備も可能)
- デジタルツイン会場(オンライン会場)を作るための会場の空間や、テクスチャ等3Dデータの準備(データがない場合、測定・制作も対応可能)
- 必要に応じてオリジナルアバターデータを制作(2種類のデフォルトアバターは無償で利用可能)
- リアル側の体験(映像や音声等)をオンライン参加者に共有する場合、配信者にiPadを配布もしくは会場内にiPadなどのカメラを設置

## リアル空間(iPad画面越し)



## オンライン空間(PC/スマホ画面越し)



## リアル空間参加者(主催者)視点の体験をライブ配信で共有



## 開催中

## リアル会場

- デジタルツインの会場であるため、オンラインとリアルが位置情報を共有することで、同じ場所を歩いている体験ができる
- オンライン参加者をリアル空間上で、ARアバターとして行動を見ることができ、リアル空間側(主催者・出展者)からコミュニケーションを取る(接客をする)ことができる  
※コミュニケーション: 移動、アバターモーション、感情アイコン、チャット、ブースごとのライブ配信
- ライブ配信中は、オンライン参加者とリアル参加者間で音声チャットが可能になり、オンライン参加者からの相談や依頼などを受けることができる

## オンライン会場

- PCやスマホから指定のURLにアクセスし、ログインするのみ(専用ソフトやアプリのダウンロードが不要)

- オンライン参加者はリアル空間に参加している人の体験(映像や音声などの配信)を、空間を歩き、自分で選んで体験する事で、自分の欲しい情報を欲しい形で受け取ることができる

## 開催後

- オンライン空間利用時の参加者データやなどの収集が可能となり、次回の会議や展示会のマーケティングに活かすことができる

## 前提条件

- 推奨通信環境: 有線LAN(10Mbps以上)

## テクノロジーの価格感

MIC: 5,000万円～ | E: 10,000万円～

内訳: MIC/初期制作費用、セミナー会場(10会場)、ブース制作費(50コマ)、リアル会場連携、サーバー・ライブ配信(3,000人×8時間分)

E/初期制作費用、メイン会場(1会場)、ブース制作費(250コマ)、

リアル会場連携、サーバー・ライブ配信(10,000人×10時間分※1時間×10回)

- \* バーチャル側のみ、リアル側のみ、参加人数や同時接続人数の内容によって見積もり変動あり。
- \* 空間・アバター3Dデータは主催者提供の上、ブースに関しては基本同一サイズを利用しテクスチャなどでイメージ変更対応の想定、リアル配信用のタブレットはレンタル想定、通信環境構築費・利用期間中のコンサル費・開催時におけるエンジニア対応・現地調整などの宿泊・交通費等は価格に含まない。

## 提供事業者

株式会社ワントゥーテン

担当: 事業推進 鈴木 | メールアドレス: t.suzuki@1-10.com

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

～リアルタイムコミュニケーションサービス～

## オンライン・リアル間のコミュニケーション

### テクノロジーの概要

360度映像配信システムの説明動画

- 360度高画質の映像・音声を、インターネットを介して送受信できるプラットフォーム。
- オンライン参加者が、リアル会場内を回遊したり、リアルのブースで臨場感ある商談を行うことなどが可能。
- チャット・投票ツール連携で、セミナー中リアルタイムでの投票・質疑等の双方向コミュニケーションが可能。
- 様々な国の方や外出が困難な方が、プラットフォームを通じて円滑なコミュニケーションが可能。



チャット・投票ツールの説明動画

### 活用フロー

	主催者	出展者	参加者
準備	<b>① 視察効率化</b> 会場の360度映像で効率的な視察が可能  <b>【事前準備】</b> ・映像送信を行う「360度カメラRICOH THETA」又は「ウェアラブルカメラ」 ・自走式ロボット「temi」一式 ・双方向ツール「RICOH Realtime Communication」 ・映像・音声を送信できる機材（ミキサー、スイッチャーなど） ・音声送受信ができる音声デバイス ・音声送受信を行うスマートフォンやタブレット ・インターネット接続ができるWi-Fi環境 ・プラットフォーム内ルーム作成 ※ ①～⑤のどれを利用するかで必要なものは異なるため要問合せ	<p>パソコンを通じて会場の360度映像を自由に視聴可能</p> <p>最少人数の方が視察に訪れ、視察場所をRICOH THETAやウェアラブルカメラを装着して周遊</p>	<b>【事前準備】</b> ・インターネット接続パソコン ・ブラウザ（Chrome） ・プラットフォームルームURLリンク
	開催中	<b>② ハイブリッドイベント支援</b> オンライン参加者へ、会場の360度映像を届け、臨場感の共有、コミュニケーション活性化を実現	<b>④ オンライン商談</b> オンライン参加者へ、会場の360度映像を届け、臨場感ある商談を実現
<b>②の続き</b> 会場参加者も、スマホを通じて同一プラットフォームでコミュニケーションが可能			<b>③ ブース拡張</b> ブースに持ち込めないモノ・風景を360度映像でみながら、ブースでの商談を活性化
開催後	<b>利用状況の提供</b> 1. 活用シーン①③④⑤についてオンライン参加者の見ている視点データの提供が可能 同時アクセス数の推移や、各参加者がどこを見ているのかを示す視点データを取得することができる。これによりオンライン参加者が何に興味があったのかを、事後のデータの解析を行うことで、知ることができる 2. 活用シーン②セミナー/ウェビナーにおける双方向コミュニケーション結果提供 どのような投票結果であったか? Q&Aにはどのようなやり取りがあったか?加工可能なCSVファイルをシステムよりダウンロードし、分析が可能		

### 前提条件

- 推奨通信環境：  
無線LAN（-50dBm以上、10Mbps以上）

### テクノロジーの価格感

- ①45万円～ 上限接続数5拠点/日 ②120万円～オンライン・リアル参加：各200接続/セミナー（2.0H）
- ③45万円～ 上限接続数5拠点/日/ブース ⑤85万円～ 上限接続数5拠点/日/台  
\* 全て配信先1か所あたりの金額
- ①内訳：初期費用、THETA×1台、ウェアラブルカメラレンタル×1台、準備期間中の人件費（2人日以内）  
\* 通信環境構築費、本番時のエンジニア対応、音声送受信デバイス等は価格に含まない。
- ②内訳：初期費用、THETA×1台、準備期間中の人件費（3人日以内）  
\* 通信環境構築費、本番時のエンジニア対応、スイッチャー、音響装置、パソコン及びそれらのオペレーション費用は価格に含まない。
- ③④内訳：初期費用、THETA×1台、ウェアラブルカメラレンタル×1台、準備期間中の人件費（2人日以内）  
\* 通信環境構築費、本番時のエンジニア対応、ブース拡張先の音声送受信デバイス、ブース側の大画面表示装置、パソコン等は価格に含まない。
- ⑤内訳：初期費用、THETA×1台、temi×1台、準備期間中の人件費（2人日以内）、本番時の人件費（1人日）  
\* 通信環境構築費、パソコン等は価格に含まない。

### 提供事業者

リコージャパン株式会社  
 担当：スマートコミュニケーション企画センター MICE事業グループ | メールアドレス：zjc\_rcinfo@jp.ricoh.com

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用 観光／視察支援、周辺サービス

～MICE x MaaS: Tourism Platform Gateway (TPG)～

# MaaSプラットフォーム

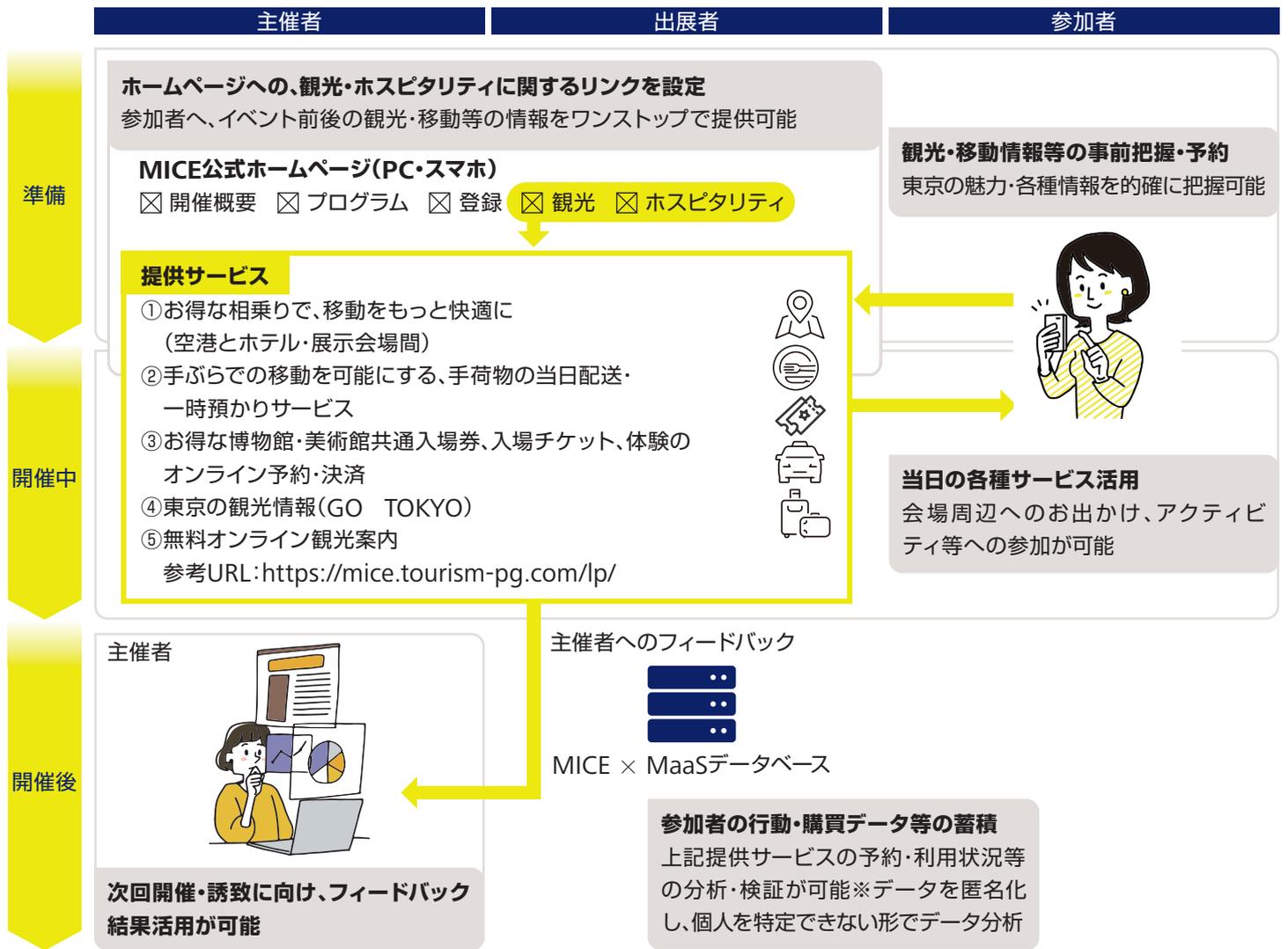
## テクノロジーの概要

MaaSプラットフォームの説明動画

- 国内外から東京を訪れるMICE参加者が、スマホ1台で東京滞在を快適に、満喫できる観光DXサービス。
- MICEホームページ内に、イベント前後の観光・移動等の情報検索及び予約決済機能をワンストップで提供できるリンクが設置される。
- 開催後、データベースに蓄積された参加者の行動・購買データ等を匿名化して分析することで、次回開催に向けて活用可能なフィードバックが得られる。



## 活用フロー



## 前提条件

- 推奨通信環境：特になし

## テクノロジーの価格感

1,500万円～

内訳：サービス利用料1か月分。催事規模やアクセス数によって金額は変わらないが利用期間によって金額は変わる。

\* MICE公式ホームページ開設費用及びリンク設定費用、提供サービス⑤・⑥以外の購買・利用データの提供は価格に含まない。

## 提供事業者

株式会社JTBCコミュニケーションデザイン

担当：コーポレートソリューション部 黒岩

メールアドレス：micemaas@jtbcom.co.jp

事前準備	受付	開催中
運営サポート	入退場管理 会場案内	式典・レセプションでの活用 セッションでの活用 展示や商談での活用
		観光／視察支援、周辺サービス

## テクノロジーの概要

極微細ミストの説明動画

- ぬれ感を感じにくい極微細シルキーファインミストとレーザー装置による映像演出、空間音響演出を組み合わせることで、これまでにないおもてなしを提供。
- リラックス空間を参加者に提供することで、会議や催し前の緊張を和らげる場、コミュニケーションの場として活用可能。
- 上記リラックス空間自体が周囲から見た美しいオブジェとして機能することでにぎわい創出にも貢献。
- 様々な人々に対して、視覚・聴覚・体感を通して驚きと感動を伝えることに貢献。



## 活用フロー

	主催者	参加者
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●直径3.6m高さ2.3mのドームを設置する空間の確保 ※会議会場以外でロビーや通路等。照明や外の光が直接入り込むような明るい場所は避け、調光などができる場所が望ましい</li> <li>●電源：単相100V15A×2</li> <li>●水道蛇口：一口</li> <li>●会場図面情報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ミスト機器、レーザー・照明ドーム、音響などの機材一式</li> <li>●マインドリセット空間のレイアウト図面などの情報</li> </ul>
開催中	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マインドリセット空間を参加者が利用、また演出テーマが参加者の国地域に関するもの等にカスタムすることで、おもてなし効果を発揮し、会場の顧客満足度の向上に寄与</li> <li>●設置期間中に对外アピールすることができ、主催者のブランド価値向上にも寄与</li> <li>●Well-beingの取組事例として国内外の参加者にアピール可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●MICE開催時の休憩時間等に利用することで、ストレスの軽減や気持ちの切り替え等、マインドリセットを目的とした非日常空間における体験が可能</li> </ul>
開催後	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実施事例の発信による主催者ブランド価値向上に寄与</li> </ul>	



## 前提条件

- 推奨通信環境：不要

## テクノロジーの価格感

300万円

内訳：リラックス空間1か所 利用期間：準備期間含め2週間以内(都内限定)

\* 期間中の運営に関する費用(機器の立上、終了。ドレン水などの排水、アロマ液などの補充、コンサル・エンジニア対応など)、夜間作業に伴う費用等は価格に含まない。

専用演出コンテンツをご要望の際は、内容により製作費が変化するため別途協議。

- その他：直径3.6m×高さ2.3mのドームを設置可能な空間

## 提供事業者

パナソニックコネクト株式会社

担当：パブリック営業本部 営業4部 営業1課 織田

メールアドレス：oda.h@jp.panasonic.com

## このようなお悩みをお持ちの方は・・・(1/2)

### 事前登録・プログラム管理

プログラム作成や施設準備、出版印刷等の各種事務業務に係るコストが大きい。

#クラウドソフト #一元管理

**01** がオススメ!

論文査読プロセスは論文募集や査読のための研究者とのマッチング等、業務が煩雑。

イベントの準備から開催後に至るまで、様々な対応に追われる。

#イベント管理

**02** がオススメ!

### インフォメーション等

受付での入場証確認は時間を要し、いつも混雑。参加者をお待たせしてしまう。

#顔認証

**03** がオススメ!

入場受付に伴う人件費のコストが大きい。

#遠隔対応

**04** がオススメ!

受付やブース等での説明・商談の対応幅を広げたい。

#分身ロボット

**05** がオススメ!

スタッフの会場案内に伴う負荷が大きい。

#AI案内

**06** がオススメ!

### <主にM・I・C> 式典・レセプション

海外からの遠隔登壇において、旧来の映像出演では臨場感に欠けている。

#3D投影

**07** がオススメ!

### <主にC> セッション

海外参加者に対し、複数の言語対応が必要であり、複数名の通訳を手配することが困難。

#AI翻訳

**08 | 09** がオススメ!

## このようなお悩みをお持ちの方は・・・(2/2)

### 展示

- |   |              |           |
|---|--------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> 大規模なMICEに対し、十分な数の会場誘導スタッフの確保が難しい。                          | #自律走行ロボット    | 10 がオススメ! |
| <input type="checkbox"/> 施設の設定制約（物理的・時間的）があるなかで、参加者に体験コンテンツを提供したい。                  | #MR #音声コンテンツ | 11 がオススメ! |
| <input type="checkbox"/> ブースや講演会など、一部の場所で過度な混雑が発生している。                              | #画像認識        | 12 がオススメ! |
| <input type="checkbox"/> 来場者の行動データなど開催時のデータ取得が出来ていない。                               | #人流解析        | 13 がオススメ! |
| <input type="checkbox"/> 行動データを取得している場合でも分析方法が分からず、次のMICEにデータを生かしていない。              |              |           |
| <input type="checkbox"/> 言語の違いや聞こえにくさにとらわれず、円滑なコミュニケーションを実現したい。                     | #リアルタイム字幕    | 14 がオススメ! |
| <input type="checkbox"/> オンライン参加者はリアル会場の展示ブースを見ることが出来ず、臨場感に欠けている。                   | #テレロボ        | 15 がオススメ! |
| <input type="checkbox"/> オンライン参加者とリアル参加者のコミュニケーションの機会や偶然的な出会いを欠いている。                | #XR          | 17 がオススメ! |
|   | #高画質カメラ      | 18 がオススメ! |
| <input type="checkbox"/> オンライン会場が単なるWebサイトになり、魅力的な会場を構築できておらず、オンライン参加者数を増やすことが出来ない。 | #メタバース       | 16 がオススメ! |

東京都及び東京観光財団提供のMICE主催者向けメタバースは、次頁をご参照ください。

### 観光／視察支援、周辺サービス

- |   |       |           |
|---|-------|-----------|
| <input type="checkbox"/> 海外からの参加者に対し、何を案内すればよいのか分からない。          | #MaaS | 19 がオススメ! |
| <input type="checkbox"/> 十分な観光案内を提供できておらず、参加者の満足度を高めることができていない。 |       |           |
| <input type="checkbox"/> 会場をおもてなしの場として活用しきれていない。                | #空間演出 | 20 がオススメ! |

## 《コラム》ガイドライン掲載テクノロジーの活用例

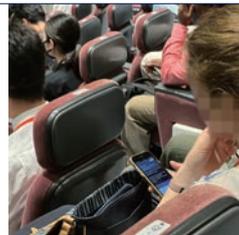
### 08 音声多言語化・文字化

#### 活用シーン

- 国際会議で、登壇者の発話内容を通訳し、会場参加者へ音声・字幕配信を行いました。

#### 主催者の反応

- 同時通訳の方が入れないセッションで本テクノロジーを活用することで、より多くのセッションで通訳環境を提供することができたことを評価いただきました。
- 複数回ご利用いただいた主催者からは、回を増す事にAIの通訳精度が向上していると評価いただきました。



### 15 遠隔商談

#### 活用シーン

- 国際学会において、オンライン参加者がテレプレゼンスロボットで現地ポスター研究発表の場へ「遠隔来場」し、現地の発表者との意見交換が実現されました。

#### 主催者の反応

- これまで参加できなかった人が参加できる、これまで見えなかったところまで目が届くようになるなど、利便性の高さが感じられたことを評価いただきました。



### 18 オンライン・リアル間のコミュニケーション

#### 活用シーン

- 国際会議で、オンライン参加者向けに、現場の熱量を伝えて偶発的なコミュニケーションを生み出すため、約100の教室から360度カメラの映像配信を行いました。

#### 主催者の反応

- 100拠点同時講演、各教室配信など複雑な運営が求められましたが、本テクノロジーの活用により成功に導くことができたことを評価いただきました。

## MICE主催者向け専用メタバース「MICE@TOKYO」のご案内



MICE@TOKYO

東京都及び東京観光財団では、都内でハイブリッドによるMICE開催を予定している主催者様向けに、メタバース「MICE@TOKYO」の運用を開始しました。

詳細については、以下をご参照ください。

<https://www.mice-at-tokyo.metro.tokyo.lg.jp>



### 東京都次世代型MICE推進会議 メンバー

座長 … 稲田 修一（早稲田大学リサーチイノベーションセンター 教授）  
坂本 和也（DMO六本木 事務局長）  
田中 弘一（一般社団法人日本コンベンション協会 事務局長）  
津川 敦（一般社団法人日本イベント産業振興協会 専務理事）  
南澤 孝太（慶應義塾大学メディアデザイン研究科 教授）

（五十音順、敬称略）

### TOKYO MICE テクノロジー導入ガイドライン

発行年：2023年1月

更新年：2024年3月

発行：公益財団法人 東京観光財団

〒162-0801

東京都新宿区山吹町346番地6 日新ビル6階

協力：東京都

### 問い合わせ先

公益財団法人 東京観光財団  
コンベンション事業部

東京観光財団ホームページ



掲載情報は2024年3月現在のものです